

## 「剖検脳を用いたアルツハイマー病における病態関連因子の解明」 に関する情報公開

当センターでは、東京都健康長寿医療センター高齢者ブレインバンクに登録された方を対象に「剖検脳を用いたアルツハイマー病における病態関連因子の解明」の共同研究を実施します。

本研究への協力を望まれない場合、あるいは研究の詳細についてお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ担当者までご連絡ください。

### ●研究の名称

剖検脳を用いたアルツハイマー病における病態関連因子の解明

### ●研究責任者

東京都健康長寿医療センター 神経病理／高齢者ブレインバンク 齊藤祐子

### ●研究の対象

2001年7月～2022年4月に東京都健康長寿医療センター高齢者ブレインバンクに登録された方の内、病理診断によりアルツハイマー病と診断された方および顕著な疾患なしと診断された方。

### ●研究の期間

倫理委員会承認後から2026年8月まで

### ●研究の目的と概要

高齢化社会を迎える近未来社会において、認知症は解決の待たれる疾患です。中でも、アルツハイマー病(AD)は認知症の原因として最も多い病気であり、予防・治療法の開発が求められています。そのためにはADにおける病態を正確に把握する必要があります。よく知られている事実として、加齢やAPOE 遺伝子多型、糖尿病などの危険因子が存在すること、またADを特徴づける病理である老人斑(A $\beta$ )や神経原線維変化(タウ)には領域特異性があること、などがあります。本研究では、従来の病理組織学的解析はもとより、生化学解析や遺伝子解析などにおける最先端のアプローチを駆使しながら、剖検脳を解析することで、ADの病態発症機序の解明を目指します。

### ●研究の方法

アルツハイマー病や健常人の剖検脳検体を用いて、A $\beta$ やタウの蓄積を評価するとともに、疾患病態に関連する分子を、超高感度ELISAなどの生化学解析や、次世代シーケンサーによる一細胞遺伝子発現解析など、最先端のアプローチを駆使しながら、探索、解析いたします。また、年齢やAPOE 遺伝子多型、糖尿病などの疾患の危険因子の効果について検討を行います。

試料は匿名化されて、国立長寿医療研究センターに送られます。

●研究に使用する試料・情報

アルツハイマー病患者と顕著な脳変性疾患のない高齢者の凍結脳

それに付随する情報(診断名、年齢、性別、臨床所見(認知機能検査結果など)、病理学的解析結果、死後時間など)

●研究組織

東京都健康長寿医療センター 神経病理／高齢者ブレインバンク	齊藤祐子
	村山繁雄
東京都健康長寿医療センター 病理診断科	新井富生
国立長寿医療センター 分子基盤研究部	里 直行
	篠原 充
大阪大学医学系研究科 老年・総合内科学	奥崎大介

●お問い合わせへの対応

本研究に関するご質問や資料閲覧のご希望は、下記の問い合わせ先にご連絡下さい。

研究計画書や研究方法に関する資料については、ご遺族の希望に応じて、他の研究対象者や研究者に不利益が及ばない範囲内で、ご覧になることができます。また、研究への協力撤回を表明された場合は、速やかに研究での利用を停止いたします。研究に協力されない場合でも不利益な扱いを受けることはありません。しかしながら、すでに研究に使用されていた場合には、結果の削除など十分なお対応ができない場合がありますことをご了承ください。

【問い合わせ先】

〒173-0015 東京都板橋区栄町 35 番 2 号

東京都健康長寿医療センター

高齢者ブレインバンク/神経病理 齊藤祐子

電話 03-3964-3241 内線 4419 (平日 9:00~17:00)